

稲羽中学校2年生 認知症サポーター養成講座 (9月2日、30日、10月7日)



各務原市では、これまでも多くの方々に“認知症サポーター養成講座”を開催してきましたが、今年度より各学校のご協力のもと、市内の中学校2年生と小学校5年生を対象にした講座もおこなわれています。認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して暖かい目で見守る応援者です。

地域包括支援センターつつじ苑では、9月2日と30日、10月7日に、稲羽中学校の2年生の生徒さんを対象に認知症サポーター養成講座をおこないました。

認知症の原因や症状等を説明し、実際にある場面をちょっとした脚本(寸劇)にした『認知症のおばあちゃんとお母さんと中学生の私』のやりとりから、認知症の人の気持ちや、どう接したら良いのか?をグループで話し合い、発表して頂きました。グループワークから「優しく、ゆっくりと話す」「おばあちゃんの思いに共感してあげる」「おばあちゃんのことを否定しない」などの意見が出ました。また、講座後のアンケートでは「認知症になって一番悲しい思いをしているのは本人だと言うことが分かった」や「将来身近な人が認知症になったら優しく接したい」「家族にも今日の講座の内容を教えてあげたい」「おばあちゃんが認知症なので、これからは優しく話を聞いてあげたい」といった意見が多く寄せられました。

認知症になっても地域で安心して生活していくためには、周りの人の理解が必要です。認知症の正しい知識と接し方を理解した認知症サポーターとして、中学生・小学生のみなさんも、あたたかい心で認知症の人を見守ってくれると良いなと思いました。